

## 行動記録 (抜粋)

23日(水) ウランバートルへ

前日まで現地の天気が悪く、便の遅延などが続いたが、予定通り出発。同じカウンタには大関・日馬富士がチエツクインの手続きをしていた。

14:10 MIA Tモンゴル航空OM5

02便でウランバートルへ。搭乗口では夏場所優勝の旭天鵬が記念写真にに応じていた。一方、日馬富士は人目を避けるように喫煙ルームへ。

14:51 離陸。機内食は魚と肉から

選べたが、私たちの列からは魚のみ。ビールはなぜかドイツビール。これが最終日まで魚の食べ納めになるとは思わなかった。

19:07 (現地時間) 17分遅れてチ

ングスハーン空港着。ガイドのトヤさんとアマルさんが出迎えに。ウランバートルの道はガタガタで交通ルールはモンゴルルール。あちこちから車や人が飛び出してくる。市街地は大渋滞。

20:45 フラワーホテル着。ホテル

のレストランへ。サラダに続き、ご飯と肉のプレート。ご飯のあまりのまずさに殆どの方が残した。ホテルの大浴場が22時までなので、部屋へ。

24日(木) テレルジへ

7:00 朝食はバイキング。パンは固く、スープや肉料理が甘く口に合わない。コーヒーはい

9:30 アマルさんの乗ったタクシ

ンスタント。ーが事故で、アマルさんを待たずに出発。スーパーで水の買い出し。日本酒もあった。トヤさんがモンゴルの家庭でよく作るというお菓子を買ってくれた。アマルさん合流。

11:00 道端でバスを降り、通行人

の願掛け。石の山に石を投げて一周して願掛け。これを3回繰り返す。

12:00 ツーリストキャンプ着。1

つのゲルを4人で使用。

12:30 バスで遊牧民のゲルへ。紅

茶と、菓子でもてなされる。ゲルには奥さんと娘さんがいた。ご主人はウランバートルに出稼ぎ。上の娘さんはウランバートルの学校に。娘さんがモンゴルの歌を歌ってくれ小諸の皆さんが小室節を歌つ



遊牧民のゲルを訪問。奥さんと娘さんが歓迎してくれた



ツーリストキャンプの様子(上)。乗馬体験も

13:20 キャンプへ戻り昼食。同じ

キャンプに宿泊する韓国の学生が食事していた。

14:50 亀岩見学へ出発。亀岩で写

真撮影と土産物見物。

16:00 キャンプへ戻り、乗馬。馬

は7頭で乗馬希望が21名。1時間ごと3班で。暴れることはないが、途中で止まってしまふ馬も。ゲルが寒くなってきたので、ストーブに火を付けてもらう。

19:30 夕食。サラダ、ご飯と人参

・焼いた羊肉2つ。横のテーブルでバスの運転手さんが手でかぶりついており、同じようにかぶりつく。夕食後、柳澤さんから星の話の話を聞く。

20:50 夕食終了。夜空は満点の星

だが、周囲に街灯があり明るい。24時頃には石炭を持って来てくれた。24時過ぎまで韓国の学生が騒いでいて、かなりうるさかった。

25日(金) 13世紀村へ

モンゴリアン・ブルーの空が広がり、風もなく清々しい朝を迎えた。未明にストーブに薪を焚き付けてくれ、ゲルの中は暖かかった。気温が下がるのではと心配していたが、それほどでもなかった。

7:15 15分前にレストランへ行つ

たが、鍵が閉まっていた、食事が並んでいる様子もない。

7:30 朝食は2種類のパン、卵焼

き、ハム・ソーセージ、ステイックきゅうり。訪問したゲルの親子からヨーグルトが届いた。日本のプレーンヨーグルトより酸味も控えめ。

9:00 キャンプ出発。バスの中で

アマルさんからモンゴル語を習った。難しい発音だが、いくつかの挨拶言葉を覚えた。

「食事や学校訪問の際に、必ずモンゴル語で挨拶してくださいね」とトヤさんに言われるが、その時にはスムーズには出てこない。

9:50 チングスハーン騎馬像着。

広々とした草原に30mの巨大な像が。ステンレス製の像の中にはエレベーターがあり、馬の首の部分まで上がった。将来的には広大なテーマパークを建設するそうだが、周りは草原のみ。騎馬像を支える建物は博物館で、当時の武器などが展示されていた。

10:50 「13世紀村」へ。途中から

舗装道路を外れ、草原の中を走り出した。標識があるわけでもなく、「さすがは運転手